



## センター研修で充実の夏休み！

令和 7 年度の須賀川市教育研修センター研修講座及び教育支援センター研修講座が、7 月 23 日(水)から始まりました。今年度は、教科等教育研修とセミナー研修をあわせて 26 講座を開設しました。県内の気温が 40℃に迫る酷暑の中、多くの先生方に参加していただき、ありがとうございます。今回、新たに学んだことや考えたことを、2 学期からの学年・学級経営や授業づくりの充実に生かしていただければと思います。いくつかの研修の様子を紹介いたします。

### 授業づくりセミナー 授業の質の向上を目指して！ ～授業実践から子どもの学びの質について考える～

このセミナーは、学習院大学教授の秋田喜代美先生を講師にお迎えしての講座でした。西袋第一小学校の佐藤典子先生に 3 年生の国語科「モチモチの木」の授業記録を提供していただきました。授業の様子を視聴し、その後、班ごとに子どもの学びの様子からリフレクションを行いました。秋田先生からは、以下のようなご指導をいただきました。



- ・ ペアでの音読では、読み味わうためには、すらすらと読むことを目的とするのではなく、言葉を大事にしながら読ませたい。友達の読みに対して、教科書を指でなぞることで、眼差しを一緒に共有することができる。これは、協同学習で大切なことだ。その際に、なぞりが速いと読むテンポも速くなってしまうので、そうならないような教師の働きかけが必要になってくる。そして、友達の読み声を聞きながら、「この読み、いいな。」「この言葉を大切にしたいな。」などと聞いている側が、読み手にフィードバックできるような関わりももてるようにさせていきたい。
- ・ グループで話し合う際には、発表で終わらせないようにしたい。今回の授業では、自分が読み描いたことや分からないことなどを付箋に書いて貼り合うことで、互いの意見を見合うことができていた。グループで 1 つの拡大教科書は、協同の学びを支えており、子ども同士がつながっていた。また、他者の読みの視点を知ることができる良さがあつた。
- ・ 子どもから出された意見を全体に広げた際に、子どもの表情や反応などからグループに再度返すこと、そのタイミングを逃さないようにしたい。これは、国語科に限らず他の教科でも大切なことである。
- ・ 国語科の教科書の文学作品は、教科書用に編集されている。その作品の原作(絵本など)があるならば、本物の世界を子ども達に味わわせたい。比べてみると、教科書会社によって取り上げている挿絵も違っている。こういったことも教材研究の中で大切にしていきたいことの 1 つだ。



今までの道德の授業を振り返りながら、教材文を読んで授業デザインを考える研修を行いました。発問の仕方で、3つの理解(価値理解・人間理解・他者理解)を大事にしようということを中心に話をしました。

教師が「話す」授業から、「みる」「きく」「つなぐ」授業にしてくには、教師がもつ「観」を変えること。「課題」と「時間配分」が大切になってくることなどについて研修しました。



福島県教育庁義務教育課  
令和7年度授業改善グランドデザインより